

追加型投信／国内／株式

日本 ニューテクノロジー！ オープン



地球
視点
愛称

R&Iファンド大賞2026 「優秀ファンド賞」受賞
投資信託10年 国内株式グロース 部門

R&Iファンド大賞2026
5年連続受賞

R&I
ファンド大賞
2026

投資信託10年部門
優秀ファンド賞
R&I Fund Award 2026

JAPAN NEW TECHNOLOGY OPEN

お申込み・投資信託説明書(交付目論見書)のご請求は

岡三証券

商号等：岡三証券株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第53号
加入協会：日本証券業協会、一般社団法人資産運用業協会
一般社団法人金融先物取引業協会
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

設定・運用は

SBI 岡三アセットマネジメント

商号等：SBI岡三アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第370号
加入協会：一般社団法人資産運用業協会

“変化”の先にある、日本株の新時代

日経平均株価は1989年12月に史上最高値(当時)を記録しましたが、1990年初頭のバブル崩壊後、長期にわたり低迷が続きました。この相場低迷と経済の停滞は2010年前後まで続きましたが、その後、日本の株式市場は長期の上昇トレンドに転じています。経済・企業・政府の3つの変化を背景として、日本株は長期の資産形成にふさわしい投資対象として注目されています。

日経平均株価の推移

(1980年1月~2026年6月、月次)

70,062円
(2026年6月末)



(出所) Bloombergのデータを基にSBI岡三アセットマネジメント作成

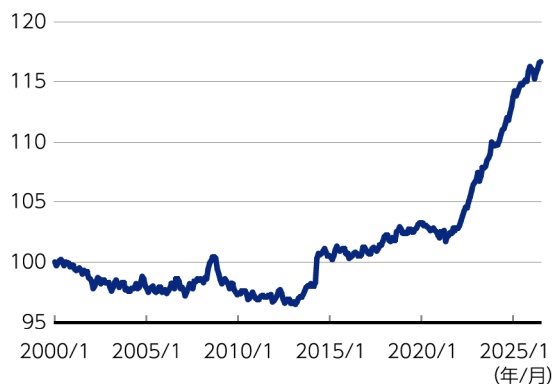
1 経済の変化

デフレからインフレへ

日本経済はデフレ状態から緩やかなインフレへ移行しつつあります。物価上昇を背景とした売上高拡大などを通じた日本企業の成長力の高まりが、日本株の評価向上につながっています。



消費者物価指数の推移



※期間：2000年1月～2026年6月、月次
※2000年1月を100として指数化
※季節調整前

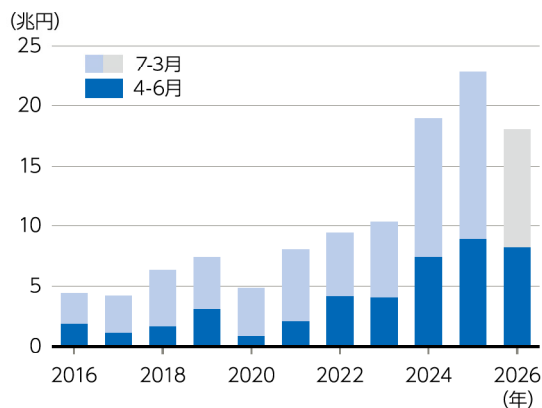
2 企業の変化

企業価値を意識した経営への転換

東京証券取引所による要請を背景に、資本コストや株価を意識した経営が企業に浸透することで、コーポレートガバナンス改革が進展しており、企業価値向上の実現に向けた企業の取り組みが加速しています。



自社株買い決議額の推移



※期間：2016年度～2026年度、年次、予想を含む
※2026年度7月-3月は当社予想

3 政府の変化

民間の自由競争から政府主導の産業育成へ

政府は、日本経済の成長力強化を目的に、官民連携を意識した中長期視点での成長戦略を打ち出しています。成長戦略と金融・資本市場政策が組み合わさることで、市場の厚みが増し、投資資金の循環を促す環境が整いつつあります。



主な戦略分野の2026年度政策予算案

AI・半導体	1兆2,390億円 (前年比 +272.3%)
GX(脱炭素)	6,611億円 (前年比 +21.1%)
科学技術	6兆3,332億円 (前年比 +25.3%)
防衛	8兆8,093億円 (前年比 +3.9%)
宇宙	1兆446億円 (前年比 +11.5%)

※GX(脱炭素)はAI・半導体を除く

良好な運用実績は外部からも高い評価を獲得

当ファンドは設定来、銘柄選択能力の高さから、TOPIXを上回るパフォーマンスを発揮してきました。
R&Iファンド大賞を5年連続で受賞するなど、運用実績は外部評価機関からも高く評価されています。

R&Iファンド大賞2026 「優秀ファンド賞」受賞
投資信託10年 国内株式グロース 部門*

R&Iファンド大賞2026
5年連続受賞

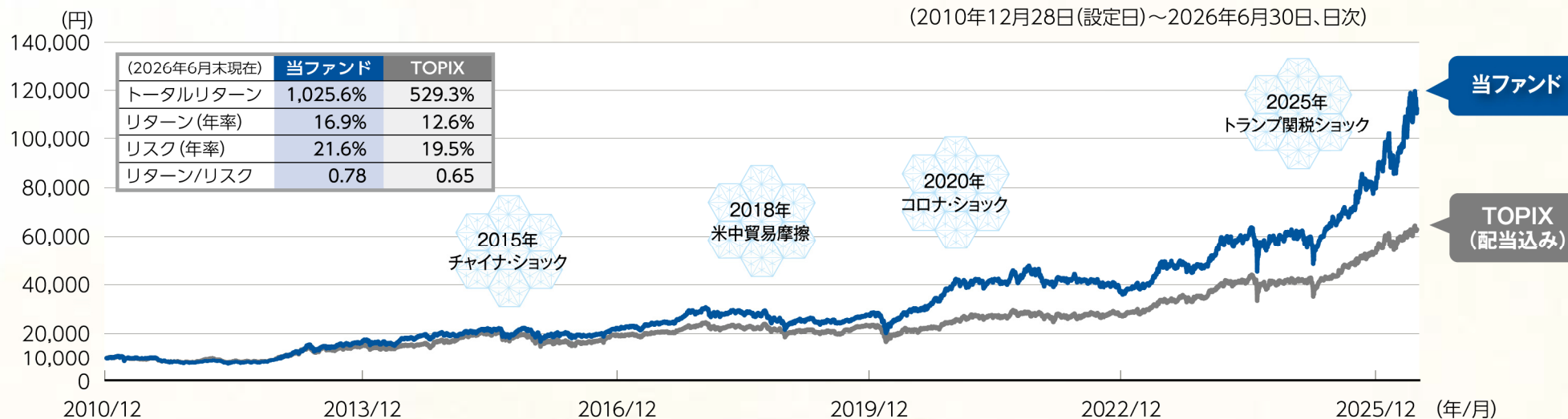
R&I
ファンド大賞
2026

投資信託10年部門
優秀ファンド賞
R&I Fund Award 2026

*選考期間(過去10年間)、選考対象(国内籍の公募追加型株式投信)、カテゴリ(国内株式グロース)、評価基準日(2026年3月末)

設定来の分配金再投資基準価額とTOPIX(配当込み)の推移

(2010年12月28日(設定日)～2026年6月30日、日次)



※当ファンド：分配金再投資基準価額(分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したもの)、信託報酬控除後

※TOPIX(東証株価指数)(配当込み)の推移は、当ファンドの設定日(2010年12月28日)の値を10,000として指数化しています。 ※TOPIX(配当込み)は、当ファンドのベンチマークおよび参考指数ではありません。

※トータルリターンは、設定日と2026年6月30日の比較です。

※運用実績は過去のものであり、将来の運用成果を示唆または保証するものではありません。また、税金、手数料等の費用を考慮しておりませんので、お客様が得られる実際の投資成果とは異なります。

(出所) Bloombergのデータを基に SBI 岡三アセットマネジメント作成

R&Iファンド大賞2026について

「R&Iファンド大賞」は、R&Iが信頼し得ると判断した過去のデータに基づく参考情報(ただし、その正確性及び完全性につきR&Iが保証するものではありません)の提供を目的としており、特定商品の購入、売却、保有を推奨、又は将来のパフォーマンスを保証するものではありません。当大賞は、信用格付業ではなく、金融商品取引業等に関する内閣府令第299条第1項第28号に規定されるその他業務(信用格付業以外の業務であり、かつ、関連業務以外の業務)です。当該業務に関しては、信用格付行為に不当な影響を及ぼさないための措置が法令上要請されています。当大賞に関する著作権等の知的財産権その他一切の権利はR&Iに帰属しており、無断複製・転載等を禁じます。

市場環境等についての評価、分析等は、将来の運用成果を保証するものではありません。

テクノロジーは持続的な成長の原動力

ーテクノロジーが社会を変え、生活を豊かにー

テクノロジーの進化が社会を変え、生活を豊かにしてきました。

我々はテクノロジーこそ持続的な成長の原動力であると考えています。

当ファンドではテクノロジーにフォーカスした投資を通じて、中長期的なリターンの獲得を目指します。

当ファンドの3つのポイント

ポイント1

テクノロジー株に
フォーカス

ポイント2

投資環境の
変化に応じた
機動的な戦略変更

ポイント3

長期にわたる
良好な運用実績

ポイント

1

テクノロジー株にフォーカス

当ファンドは、「日本の新時代」を導く3つのテクノロジー分野(デジタル、グリーン、ヘルスケア)に着目し、投資を行います。

デジタル

テクノロジー

技術革新でデジタル社会を創生

Digital

グリーン

テクノロジー

地球の平和と安全を守る

Green

Health
care

ヘルスケア

テクノロジー

健康と美は人類永遠のテーマ

半導体

半導体製造装置や半導体・電子デバイス、電子材料 など

AI関連

AIを実装する情報システム、電力設備 など

安全保障

防衛装備品、衛星監視システム、海底資源開発 など

脱炭素

電気自動車や天然ガス・LNG設備、原子力発電 など

医薬品

次世代創薬やバイオ医薬品、抗体医薬 など

医療機器

内視鏡やカテーテル、血液検査装置 など

※上記分野は、当社独自の分類です。各分野および事業例は今後変更になる場合があります。

(ご参考)投資銘柄例

Digital

デジタル・テクノロジー

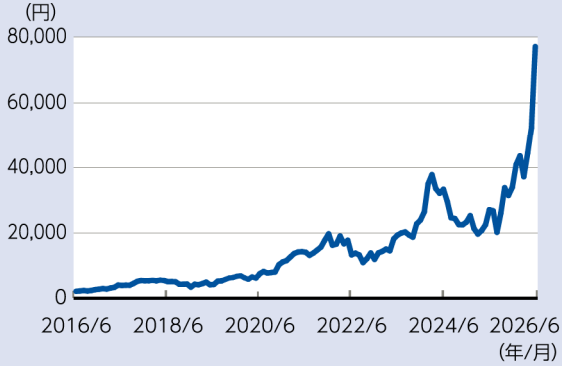


東京エレクトロン

企業概要
半導体製造装置の国内最大手。前工程向けでは、コーター・デベロッパーで世界トップシェアを有し、エッチング装置や成膜装置、洗浄装置でも高い市場シェアを誇ります。

ファンドマネージャーの視点
AIの普及を背景に高性能半導体の需要拡大が続くなか、半導体メーカーの積極的な設備投資や各国の生産体制強化を追い風に、半導体製造装置市場の成長が期待されます。高い技術力を有する同社の成長に注目しています。

株価の推移 (2016年6月～2026年6月、月次)



Green

グリーン・テクノロジー

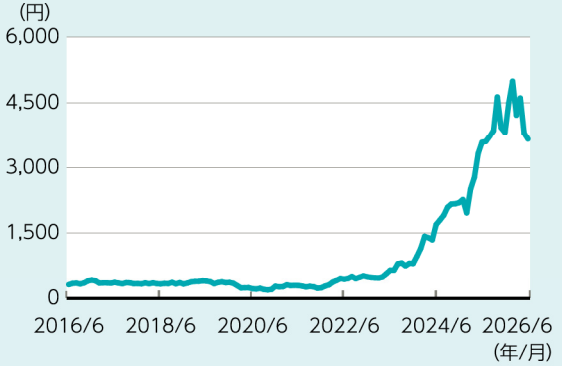


三菱重工業

企業概要
総合重機械メーカーの国内最大手。ガスタービンや原子力発電設備などの発電システムで高い競争力を有するほか、JAXAと共同で宇宙ロケットの開発・製造を担うなど、宇宙分野でも存在感を発揮しています。

ファンドマネージャーの視点
世界的な電力需要の拡大を背景とした発電設備への投資、防衛力強化や防衛装備品の輸出拡大を後押しする政策、さらには宇宙分野への継続的な需要など、事業環境は大きく変化しています。これらの変化が同社の中長期的な成長を支えると考えています。

株価の推移 (2016年6月～2026年6月、月次)



Health care

ヘルスケア・テクノロジー

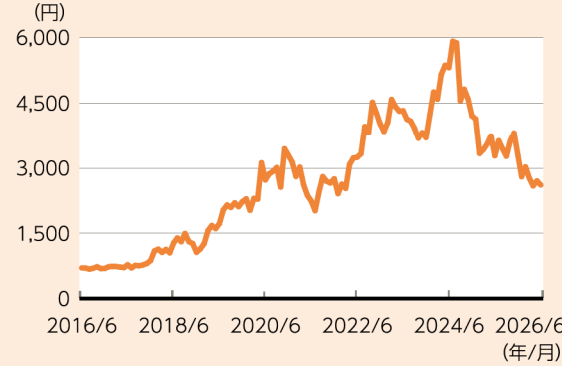


第一三共

企業概要
国内大手の医薬品メーカー。がん治療薬の有力分野である抗体薬物複合体(ADC)の研究・開発で世界トップクラスの技術力を有し、独自のADC技術を活用した新薬開発を推進しています。

ファンドマネージャーの視点
世界トップクラスのADC技術が、次の成長を支えると考えています。ADCは複数のがん種への応用が期待される技術であり、主力製品「エンハーツ」に続く新たな医薬品の創出にもつながる可能性があります。

株価の推移 (2016年6月～2026年6月、月次)



※上記は当ファンドにおける投資銘柄例の紹介を目的としたものであり、記載銘柄の推奨および個別銘柄の組入れを示唆・保証するものではありません。

※写真はイメージです。

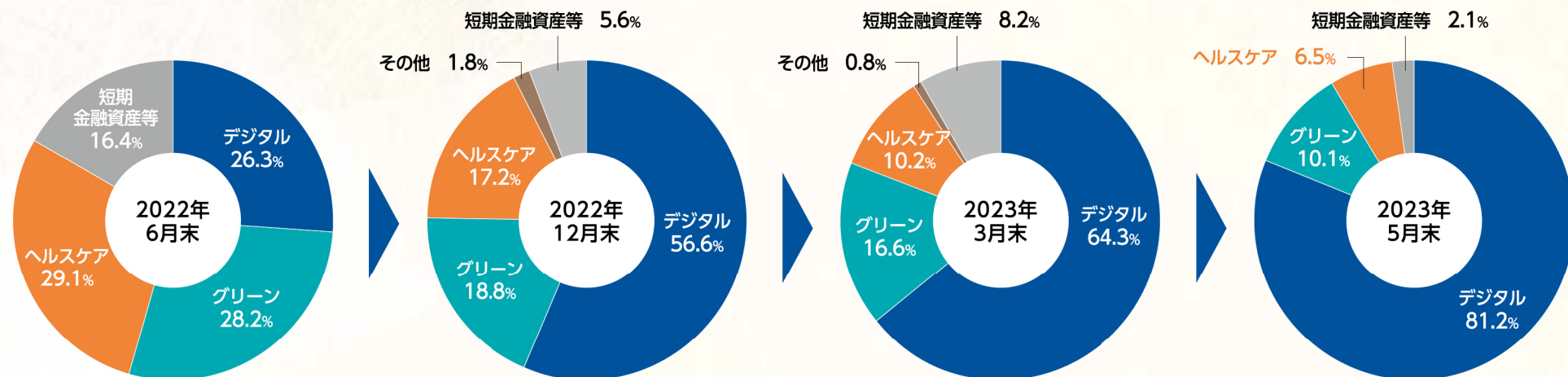
※記載銘柄の各分野については、当社独自の分類であり、今後変更になる場合があります。

(出所) 各社HP、Bloombergのデータを基にSBI岡三アセットマネジメント作成

市場環境等についての評価、分析等は、将来の運用成果を保証するものではありません。

投資環境の変化に応じた機動的な戦略変更

当ファンドは、投資環境の変化に応じて機動的にポートフォリオを見直します。



戦略 1 米利上げ開始で景気後退を想定
徹底したディフェンシブ戦略を採用

戦略 2 想定に反して株価が底堅く推移
ポートフォリオを見直し
シクリカル(景気敏感)銘柄など組入れ

戦略 3 半導体関連株が悪材料出尽くしたと判断
組入比率を段階的に引き上げ

戦略 4 エヌビディアの決算発表で、
AI用半導体の需要急増を確認
半導体関連株の組入比率を
大きく引き上げ

各局面における組入上位10銘柄

1	日本電信電話
2	KDDI
3	電源開発
4	塩野義製薬
5	武田薬品工業
6	ヤーマン
7	オリックス
8	東芝
9	オリンパス
10	アステラス製薬

1	三菱重工業
2	日本電信電話
3	フジクラ
4	第一三共
5	ロート製薬
6	日油
7	ソニーグループ
8	円谷フィールズホールディングス
9	IHI
10	SANKYO

1	日本電信電話
2	ルネサスエレクトロニクス
3	デンソー
4	ソニーグループ
5	キーエンス
6	神戸製鋼所
7	イビデン
8	日本製鉄
9	クラレ
10	ソシオネクスト

1	ソシオネクスト
2	ルネサスエレクトロニクス
3	イビデン
4	デンソー
5	日立製作所
6	ソニーグループ
7	アドバンテスト
8	HOYA
9	信越化学工業
10	キーエンス

※各組入比率は小数点以下第2位を四捨五入しているため合計が100%とならない場合があります。 ※個別銘柄の各分野への区分は、当ファンドの運用担当者が主観的に行っているものであり、客観的な水準に基づくものではありません。 ※上記は過去の事例を示したものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。 ※上記の個別銘柄は説明のための例示であり、ファンドへの組入れを示唆・保証するものではありません。

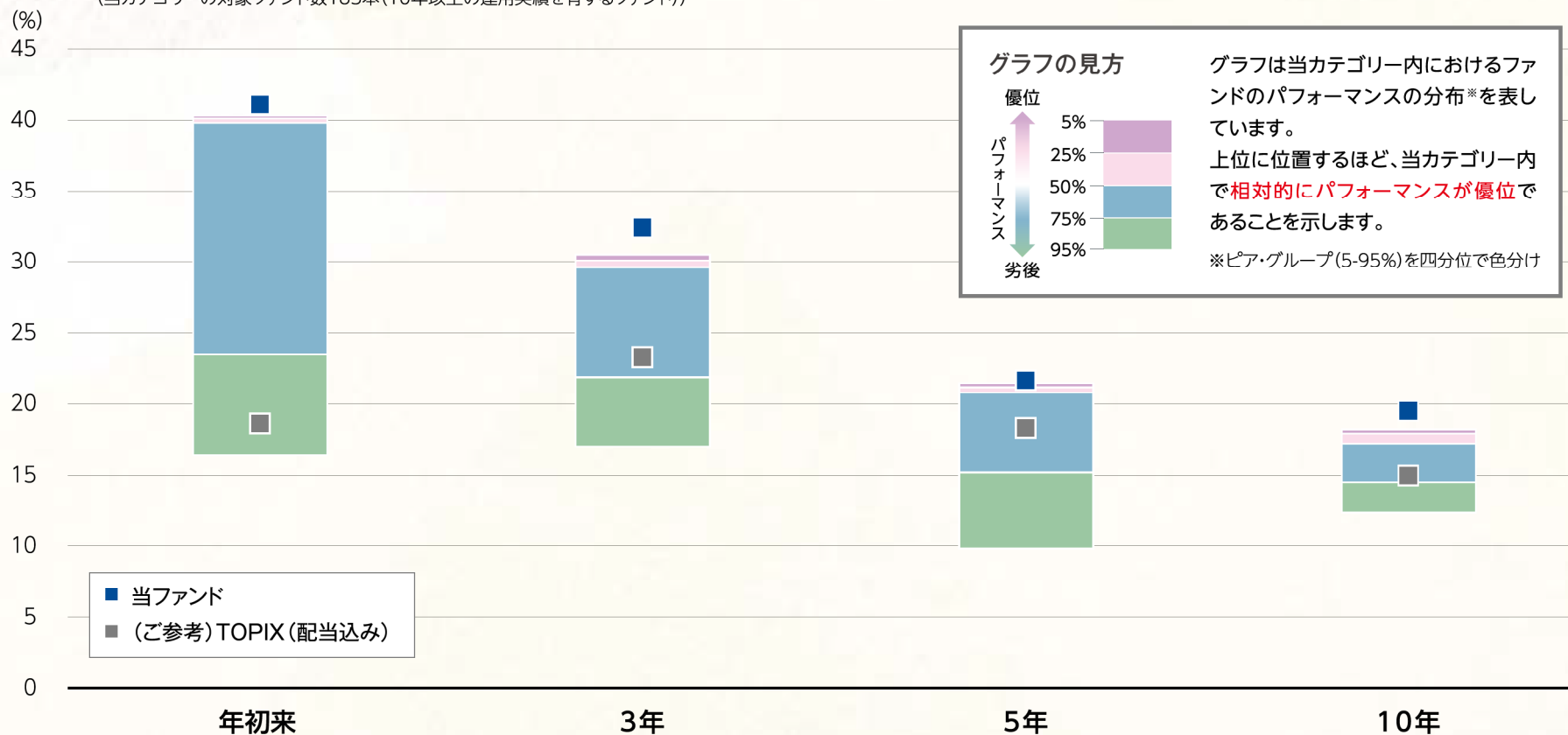
市場環境等についての評価、分析等は、将来の運用成果を保証するものではありません。

長期にわたる良好な運用実績

当ファンドは、投資環境の変化に応じた機動的な戦略変更により、年初来から10年までの各投資期間において、良好な運用実績を残しています。

国内大型成長株カテゴリー*における保有期間別パフォーマンス分析

*国内大型成長株カテゴリー(以下、当カテゴリー)：Morningstar Directが定量的分析により、成長・割安、時価総額等の観点から決定しています。
(当カテゴリーの対象ファンド数185本(10年以上の運用実績を有するファンド))



※2026年6月末現在 ※月次リターンを基に算出 ※TOPIX(配当込み)は参考として表示しており、カテゴリー内には含まれません。

※運用実績は過去のものであり、将来の運用成果を示唆または保証するものではありません。また、税金、手数料等の費用を考慮しておりませんので、お客様が得られる実際の投資成果とは異なります。

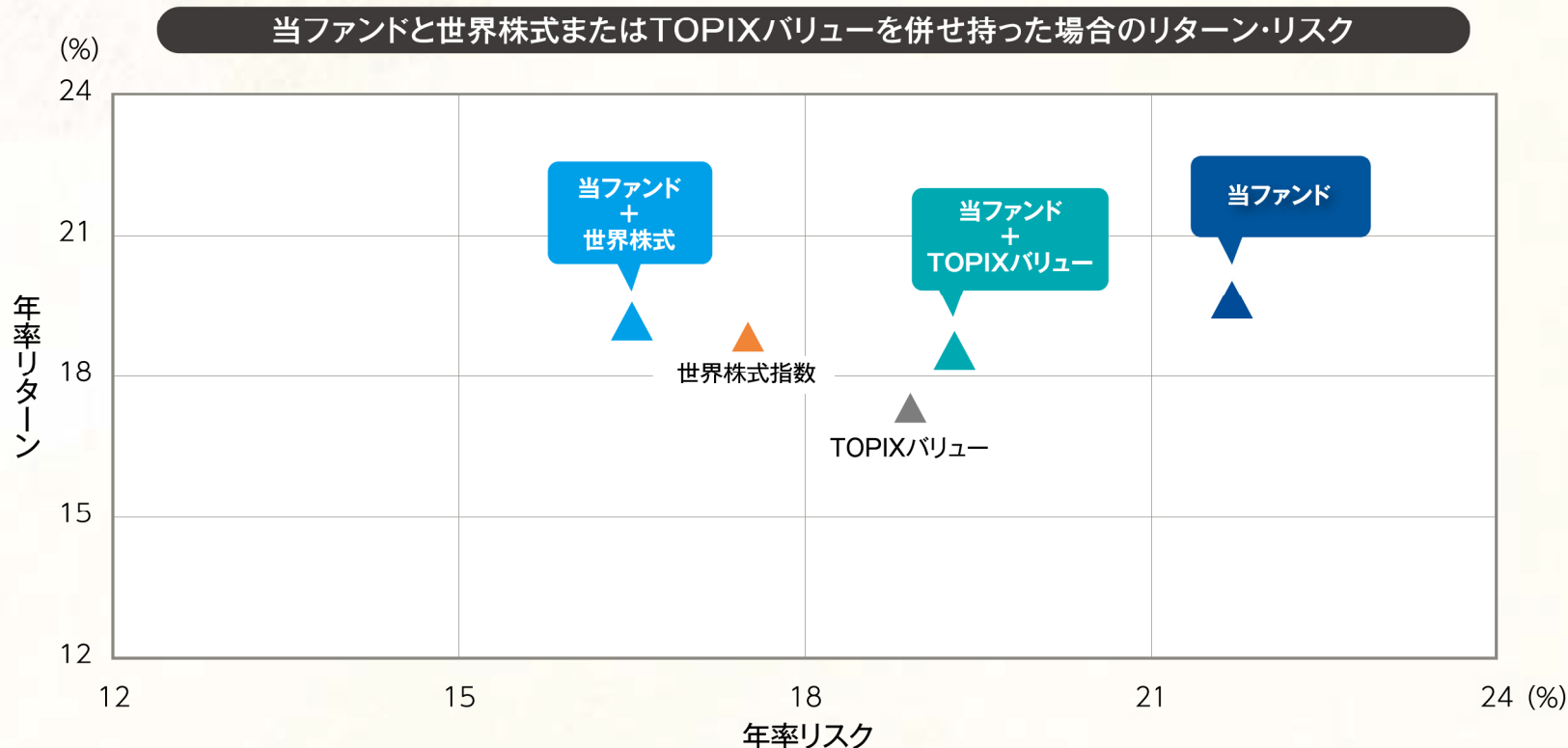
(出所)Morningstar Directのデータを基にSBI岡三アセットマネジメント作成

市場環境等についての評価、分析等は、将来の運用成果を保証するものではありません。

ポイント③ 長期にわたる良好な運用実績

(ご参考)併せ持ち

当ファンドを併せ持つことで、ポートフォリオの投資効率(リターン／リスク)の改善が期待されます。



※期間：2016年6月30日～2026年6月30日、日次 ※リターン、リスクは年率

※当ファンド：分配金再投資基準価額(分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したもの)、信託報酬控除後

※世界株式：MSCIオール・カンントリー・ワールド・インデックス(配当込み、円換算) ※TOPIXバリュー：TOPIXバリュー指数(配当込み)

※併せ持ちは、2016年6月30日に各指数・当ファンドへ50%ずつ投資し、継続保有した場合のシミュレーション

※TOPIXバリュー指数(配当込み)は、当ファンドのベンチマークおよび参考指数ではありません。

※運用実績は過去のものであり、将来の運用成果を示唆または保証するものではありません。また、税金、手数料等の費用を考慮しておりませんので、お客様が得られる実際の投資成果とは異なります。

●MSCI指数はMSCI Inc.が算出している指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。またMSCI Inc.は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

(出所)Bloombergのデータを基にSBI岡三アセットマネジメント作成

市場環境等についての評価、分析等は、将来の運用成果を保証するものではありません。

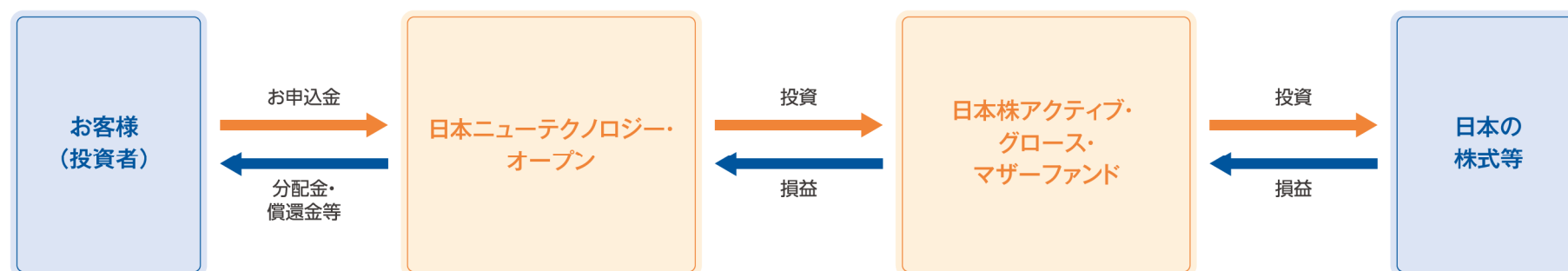
ファンドの特色



1. わが国の金融商品取引所上場の株式のうち、世界が注目する次世代産業を担うニューテクノロジー*に強みを持つ日本企業の株式に投資します。

*ニューテクノロジーとは、新しい価値を創造し、社会に大きな変化をもたらす技術を指します。

<ファミリーファンド方式で運用します>



2. 投資にあたっては、ニューテクノロジーにより収益の拡大が期待される企業に着目します。

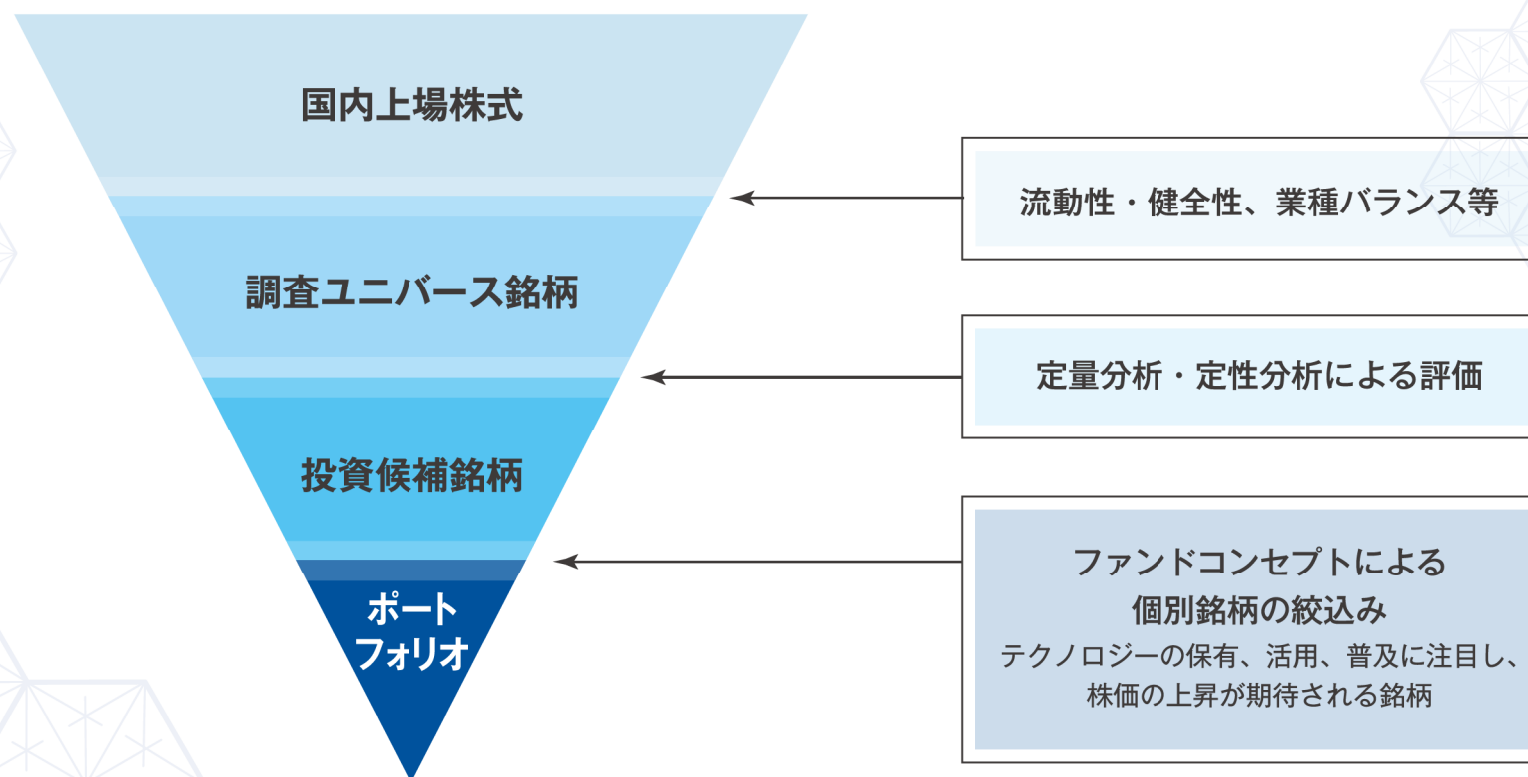


3. ボトムアップ・アプローチによる徹底したリサーチにより、銘柄の絞込みを行います。

※ボトムアップ・アプローチとは、個別企業の調査・分析から企業の将来性を判断し、株価の相対的位置を見極めて投資対象を選別していく運用方法のことをいいます。

ポートフォリオ構築プロセス

日本株アクティブ・グロース・マザーファンドのポートフォリオ構築プロセス



※ポートフォリオ構築プロセスは、変更になる場合があります。

投資リスク

基準価額の変動要因

投資者の皆様は投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

投資信託は預貯金と異なります。投資信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者の皆様に帰属します。

ファンドは、国内の株式等値動きのある有価証券等に投資しますので、組入れた有価証券等の価格の下落等の影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。

主な変動要因

株価変動リスク

株式の価格は、発行会社の業績や財務状況、株式市場の需給、政治・経済状況等の影響により変動します。

信用リスク

有価証券等の発行体の破綻や財務状況の悪化、および有価証券等の発行体の財務状況に関する外部評価の変化等の影響により、投資した有価証券等の価格が大きく下落することや、投資資金が回収不能となることがあります。

その他の変動要因

流動性リスク

※「基準価額の変動要因」は、上記のリスクに限定されるものではありません。

留意事項

- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリングオフ）の適用はありません。
- 投資信託は預金商品や保険商品ではなく、預金保険、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関が取り扱う投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。
- ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金申込みの受付が中止となる可能性、換金代金の支払が遅延する可能性があります。
- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合があるため、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。また、投資者の購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。
- ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行います。ファンドが投資対象とするマザーファンドを他のベビーファンドが投資対象としている場合に、当該他のベビーファンドにおいて追加設定および一部解約等がなされた場合には、その結果として、マザーファンドにおいても売買等が生じ、ファンドの基準価額に影響を受けることがあります。
- 取引所における取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金申込みの受付を中止することや、すでに受付けた購入・換金申込みの受付を取消すことがあります。

お申込みメモ

購 入 時	購 入 単 位	販売会社が定める単位 ◆詳しくは販売会社にご確認ください。
	購 入 価 額	購入申込受付日の基準価額
換 金 時	換 金 単 位	販売会社が定める単位 ◆詳しくは販売会社にご確認ください。
	換 金 価 額	換金申込受付日の基準価額
	換 金 代 金	換金申込受付日から起算して、原則として4営業日目から販売会社を通じてお支払いします。
そ の 他	信 託 期 間	2045年12月15日まで(2010年12月28日設定) ◆受益権口数が5億口を下回ることとなった場合、やむを得ない事情が発生した場合等には繰上償還となることがあります。
	決 算 日	6月および12月の各月15日(休業日の場合は翌営業日)
	収 益 分 配	年2回、収益分配方針に基づいて収益の分配を行います。 ◆将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。
	課 税 関 係	課税上は株式投資信託として取り扱われます。 公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合にNISA(少額投資非課税制度)の適用対象となります。 ファンドは、NISAの「成長投資枠(特定非課税管理勘定)」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 配当控除の適用が可能です。益金不算入制度の適用はありません。 税金の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

お客様にご負担いただく費用

■ お客様が直接的に負担する費用

購入時	購入時手数料	購入金額(購入価額×購入口数)×上限3.3%(税抜3.0%) ◆詳しくは販売会社にご確認ください。 ◇ファンドの商品説明および販売事務手続き等の対価として販売会社に支払われます。
換金時	換金手数料	ありません。
	信託財産留保額	ありません。

■ お客様が信託財産で間接的に負担する費用

保有期間中	運用管理費用 (信託報酬)	純資産総額×年率1.54%(税抜1.4%) 委託会社 年率0.65%(税抜) ◇委託した資金の運用の対価です。 販売会社 年率0.70%(税抜) ◇運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価です。 受託会社 年率0.05%(税抜) ◇運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価です。
	その他費用・手数料	監査費用：純資産総額 × 年率 0.011%(税抜 0.01%) 有価証券等の売買に係る売買委託手数料、投資信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用等を投資信託財産でご負担いただきます。 なお、マザーファンドの当該費用につきましては、間接的にご負担いただきます。 (監査費用を除くその他費用・手数料は、運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことはできません。)

○お客様にご負担いただく費用につきましては、運用状況等により変動する費用があることから、事前に合計金額もしくはその上限額またはこれらの計算方法を示すことはできません。

○詳しくは、「投資信託説明書(交付目論見書)」の「手続・手数料等」をご参照ください。

■ 委託会社およびその他の関係法人

委託会社	投資信託財産の設定、運用の指図等	SBI岡三アセットマネジメント株式会社
受託会社	投資信託財産の保管・管理等	三菱UFJ信託銀行株式会社
販売会社	購入・換金の取扱い等	販売会社の詳細につきましては、右記の委託会社電話番号まで お問い合わせいただくか、ホームページをご参照ください。

委託会社お問合わせ先

電話番号

03-3516-1300
(営業日の9:00~17:00)

ホームページ

<https://www.sbiokasan-am.co.jp>

■本資料は、SBI岡三アセットマネジメント株式会社が作成した販売用資料です。本資料中の図表等は、各出所先(ホームページを含む)のデータを基にSBI岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものです。記載内容、数値、図表等は、本資料作成日時点のものであり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものではありません。本資料は当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■購入の申込みに当たっては、「投資信託説明書(交付目論見書)」及び「契約締結前交付書面」又は「目論見書補完書面」を十分にお読みいただき、投資判断は、お客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。

作成：SBI岡三アセットマネジメント株式会社



JAPAN NEW TECHNOLOGY OPEN